

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4271102321
法人名	医療法人有葵会のぼる内科
事業所名	有葵会 のぼる内科 グループホームゆうき
所在地 (電話番号)	長崎県諫早市多良見町元釜5番地15 (電 話) 0957-44-1765

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 19年 9月 13日	評価確定日	平成20年1月18日

【情報提供票より】(平成19年 4月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	10/10人	常勤 6/5人, 非常勤 4/5人, 常勤換算 8.36 /7.8	

(2)建物概要

建物形態	併設／○単独	新築／改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	7階建ての 階 ～	4階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30.000円		その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	210円	昼食	420円
	夕食	420円	おやつ	円
	または1日当たり		1050円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83	最低 58歳	最高 93歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	すばる診療所、江頭歯科、訪問看護ステーションいきりき
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海に面した7階建ての白い建物の洋風の外観と大きな椰子の木が植えられたロータリー、玄関先は南国のホテルを思わせる佇まいで“景色が好いから此处に決めたの”と入居者が言われるようにホーム部分である4階からの眺めは絶景である。周辺には大手企業の社屋や同業施設の建物等もあり、地域の中に少しずつ自然な形で溶け込み馴染んで来ている。管理者は地域の運動行事の選手として参加し地域との関係作りを行うと共に、老人会の方々にも気軽に来て頂ける様なホームを目指している。入居者と共に家族の一員として一緒に生活して自分も支えて貰っているという思い、互いの思いやり・助け合いが入居者・職員の笑顔につながり、やりがい感につながっている。自分の思いをどのように表現してよいのか迷いがあり、互いの思いが十分に伝わっていない面がみられるが職員全員が常に相手の立場を思いやり、周りの事を考えるという思いを互いに感じあい行動しているだけでなく、管理者へ相談しやす環境や職員同士の連携、働きやすい環境等により人・環境・資源・技術・心理等長所・短所を見極め発信し取り組んで行ける段階になってきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①お知らせや手紙の文末に理念を書き加え、家族に解かりやすく身近に感じられるようにした②自治会の加入・回覧板・行事への参加を通して地域に理解して頂けるよう関わっている③担当制を取り入れ個別の介護計画作成し、計画に基づいた記録を見直しに反映させている④温度計や加湿器の設置、個人用の食器を使用しその人らしく暮らせるよう取り組んでいる
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に、自己評価表を記入して貰うと共に家族と一緒に話し合い評価に取り組んだ。職員自らの取り組みや働きかけは少ないが、評価に基づき改善策や方向性を示す事で、取り組みの方法について検討している。地域らしさとホームとの関わり、ケアの現場を伝えていく役割を担っている事に職員が気づき、一人ひとりの力を上手に発揮できている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市職員・駐在所警察官を始め地域の方等、出席頂いた方々に認知症の理解について話す事から始め、外部評価・自己評価について報告しホームへの理解を深めて頂いている。自治会入会を快諾して頂いたり、家族会発足や会議に出席し易くする為に集約した意見を推進会議に提議する等の要望を反映させ、出席するだけでなく参加し討議していく方向に向かっている。ホームから積極的な市職員への情報提供等は出来ていないが、何かある時や窓口に伺った時には声をかけて頂いており、事務的な事を相談したりアドバイスを頂いている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご意見箱を設置したり回来訪された時には「何かあったら言ってください」と繰り返しお伝えするだけでなく、遠方の方には電話でお伺いしたりしている。何か変化がある時にはお知らせすると共に、外出時の写真を部屋に飾ったり、請求書送付時手紙を同封し生活の中で気付いた事をお伝えする等、報告の機会とし入居者の情報が共有できるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者と散歩の時に挨拶を交わしたり、地域の行事に参加して地域が何を求めているのか情報収集している。地区のバレーボール大会に管理者が参加し、参加メンバーの入居者家族や地域住民と一緒に汗を流す事で、本音の話を聞けたりつながりが深まってきた。H.19年6月から自治会に加入し回覧板を廻して貰う為に郵便ポストを1階に設置した。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	言葉で表現できなくなった思い・心の声に耳を傾け共感しキャッチしたい。受け取る側が常に聞く姿勢を持った上で、その人らしさを導き出しホーム外でも一緒に暮らせるようにという想いを込め開設時管理者が作りあげた。地域密着型サービスの役割を意識しての見直しは行なわれていないが、生きてきた背景・その人らしさを支え寄り添い支援する事を理念に盛り込んでいる。	○	地域に出向いていきホームへの理解を深めて頂き、地域の方がどのような事を求めているのか、何が必要かに耳を傾け地域で暮らしていく視点を追加していくと共に入居者・職員の力が発揮され、地域に根ざした社会資源としての役割を果たす事が理念の中に盛り込み見直しされる事に期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は名刺に理念を印刷し地域へ浸透するような取り組みをすると共に“耳を傾ける”事はその人らしさを導き出し、持てる力を発揮出来る事を伝えより具体的な理解につなげている。朝の申し送りでケアの中で気付いた事を伝え合っているが、理念を実践する方法が解らず、意見を活発に出したり行動化する状況には至っておらず、職員間に十分に浸透しているとは言えない。2ヶ月前より職員同士の意見交換が出来る場を作り、アイデアや工夫など出している。	○	一方では会議・朝の申し送りでも伝えていく事を考えており、他方では個別面接により本人の気持ちに耳を傾け、職員らしさが出せると共に外部研修に参加し、理念に向かっていけるよう取り組みを考えている。職員個々と話をする事で良い所・課題となる所を見つけ取り組んでいるが、仕事に対する思いや危機予測等幅広く様々な視点を持ち、更に入居者本位で取り組んでいかれる事に期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者と散歩の時に挨拶を交わしたり、地域の行事に参加して地域が何を求めているのか情報収集している。管理者が地区のバレーボール大会に参加し、参加メンバーの入居者家族や地域住民と一緒に汗を流す事で本音の話を聞けたり、地域とのつながりが深まってきている。H.19年6月から自治会に加入でき、回覧板を廻して頂くようになり郵便ポストを1階に設置し、気軽に立ち寄って頂けるよう配慮している。	○	入居者の出身校で開催される地区合同の運動会や花見へ入居者と一緒に参加を予定している。今後地域活動に参加する中で、保育園・幼稚園等の団体との交流のきっかけ作りとなり、ホームが身近な存在として溶け込み、地域住民としての暮らしの場となるよう更なる取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に自己評価表を記入して貰うと共に家族と一緒に話し合い評価に取り組んでいるが、職員自らの取り組みや働きかけは少ない。評価に基づく改善策も意見は出なかったが方向性を示す事で、取り組みの方法等共に検討できる段階になって来ている。入居者が明るくなり変化している事を地域の方からお聞きする事で、地域らしさとホームとの関わり、ケアの現場を伝えていく役割を担っている事に職員が気づいてきており、一人ひとりの力を上手に発揮できている。	○	ホームの現状や改善できる部分について、改善策の取り組み内容を職員へ提案した事で実践場面での取り組みが行なわれるようになり、その効果として職場内で活気が出てきている。目指す方向性を互いに共有し職員自らの行動変容を促す為にも、職員の意見を取り入れたりと一緒に話し合っていく等更なる取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、駐在所警察官や自治会・老人会・区長、民生委員の方々に出席頂き認知症の理解について話す事から始め、管理者が以前から取り組んでいた、自治会入会への働きかけに対し承諾を頂けた。2回目には家族会発足についての提案があり、家族会での意見を集約して推進会議に提議する方が参加し易いという要望もあり、家族会の頻度について検討中である。外部評価・自己評価についてお知らせは行なっているが、結果について報告等行っていない。	○	外部評価の結果を報告し家族の方や外部の方からも意見を頂き、運営に反映させて行くだけでなく地域の中のホームとしての役割等の取り組みを考えている。家族に参加して頂く中で今後入居者の同意を頂き、本人にも参加して頂く等、サービス評価と推進会議を活かした取り組みに期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何かある時には窓口に出向きホーム利用に関する事務的な事等、相談したりアドバイスを頂いている。連絡協議会に参加し情報提供を行なっているが、積極的に市職員へ伝えることは出来ていない。市役所の出張所は職員数が少なく外出が困難な為、支所の高齢介護課の方が交替でホームへ来られたり、窓口に向った時には声をかけて頂いている。	○	家族からの要望もあり2～3ヶ月に1回ホーム便りの発行を検討中で、情報提供として支所に持って行く事や散歩時に行きつけの場所として訪問できるように考えておりさらなる充実に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	外出時の写真を部屋に飾ったり、請求書送付時に手紙を同封し報告の機会としている。何か変化がある時にはその都度お知らせしているが、生活の中で気付いた事をお伝えし入居者の情報が共有できるよう取り組んでいる。	○	ケアの内容が家族に伝わっていない部分があり、家族の不安を受け止め寄り添い目標を共有していく事でケアが伝わっていく。定期的に手紙やホーム便り等を通じて報告を行なうと共に、職員の意見も取り入れながら担当制にする等意識して観察し、ホーム内でその人らしさが発揮できている部分等個別的な内容を家族へお知らせし、家族のご要望に応じた報告の仕方等取り組みに期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり1～2ヶ月に1回来訪された時に「何かあったら言ってください」と繰り返しお伝えするだけでなく、遠方の方には電話でお伺いしたりしている。	○	10月に家族会が発足予定で今迄以上にご意見を頂き、運営に反映して行きたいと考えている。推進会議にも家族会代表の方、入居者・家族等自由に参加して頂き、更に意見をお聞きできる場を作って行かれる事に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者と相談し職員の適性を考えた上での異動は行なうが、定期的には行なっていない。職員のペースで進めるのではなく、個々の発想や何が出来るのかという視点で気付きを持つ為に2～3ヶ月毎にユニットを交替し相互に協力している。職員がユニット間を行き来しているが入居者は顔馴染みになって混乱を起こす事等はない。管理者は食事会でゆっくり話を聞いたり休みの希望に極力応じる等、職員のストレス解消に努めている。	○	食事会等定期的に関き職員が精神的にゆとりが持てる様な場を作って行きたいと考えている。又仕事のあり方等模索しながら取り組んでいる状況であり今後に期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り外部研修に参加出来るよう、管理者が計画を立てているが、職員の希望を優先・受講させている。毎日の申し送り時や月1回のミーティング時を利用し、伝達研修や資料等使った内部研修の場としている。職員が内部研修を立案し積極的に行う事になっているが実施には至っていない。職員毎の研修計画については大まかな構想はあるが、個別に計画されたものはない。	○	個々のスキルアップの為に計画を作っていく共に、自ら考え行動し課題に取り組んでいけるよう、内部研修を定着させ視点を広く持てるように、全体のレベルアップを目指し取り組んでいかれることに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は長崎県・諫早市の両グループホーム連絡協議会に参加し、管理者と交替で協議会主催の研修会にも参加し伝達研修を行なっている。相互訪問等職員の直接の交流はないが、管理者は他ホームの管理者に相談し合ったりしている。	○	地域にある他ホームでの取り組みを見たい、取り入れられるものは取り入れて行きたい等職員の思いが強く、今後相互訪問や交流の機会を検討し実践していくことで、情報交換・サービスの質向上・同業者間の横のつながりが強化される事に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅・病院・施設訪問を行ない本人とお会いして馴染みの物を確認したり、家族の方に見学に来て頂く等家族と話し合いながら利用支援をし、本人も納得して入居して頂いているが、帰宅願望が強く何度も外出を繰り返された時等は、本人の気持ちに寄り添い何時間も一緒に外を歩いて対応すると共に、家族の方に訪問回数を増やして頂く等している。	○	家族・ケアマネージャーから事前に暮らしぶり等の情報を頂き、時間をかけて訪問しながら行ったり来たりする中で馴染みの関係を築き、本人が安心・納得した入居になるよう今後の取り組みに期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の歌や料理を教えて頂くだけでなく、家族の一員であるという思いが強く、体調の悪い入居者の事が気になっていたり疲れている時に励まして頂いたり、職員が相談する場面もあり、人生や生きる事について学ばせて貰っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全入居者について把握できているが、他ユニットでは場面場面について把握しようと努め、把握が困難な方は表情や行動等観察しアセスメントしている。一緒に泣いたり11月中旬にも拘らず入居者の行動に寄り添い、共に夜まで戸外で過ごし食事もおにぎりを食べたり、道路に寝転んでみたりあきらめずに取り組んでいる。一緒にその行動を体感し本人の不安の原因を考え寄り添う職員の気持ちが、入居者にも伝わり安心できる環境が作られている。	○	入居者の生活背景や其々の価値観、想いの違いを理解し本人の気持ち・不安に寄り添えるよう信頼関係を深め、又、職員自身が種々の機会を利用し自己研鑽に勤め、更なる充実に期待したい。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式により本人の意向を把握し反映させており、意向の表出が困難な方は家族との会話の中から、どのように暮らしたいのか入居者本位の視点で作成している。家族や職員から予め意見や気付きを言っていたり、ケアや生活上の注意点等医師へ相談している。	○	地域で暮らすという視点でアセスメントを行い本人・家族の意向や意見、職員の気付き等が今以上に反映でき、ケアの実施内容が伝わり易い表現を考え、更に家族からの意見を頂ける様に取り組んでいかれることに期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者全員について日々のケアの中で観察・確認し、状態変化についてミーティングで話し合っている。3ヶ月に1回は家族との話し合いや意向の確認も行っているが、ケースカンファレンスの時間が調整できず、全利用者について検討は行なわれていない。	○	家族来訪時、生活状況や暮らしぶりについて報告するだけでなく“何かないですか”等家族・本人にお尋ねしたり確認すると共に、カンファレンスが出来る時間帯を検討し本人・家族の要望や職員の意見を取り入れ、定期的な見直しにつながるよう取り組みに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	誕生日に本人・家族の外出時間を調整したり、要望をお聞きしながら外出支援が行なえる体制である。ターミナルケアの必要時には医師へ家族の意向を伝える等の連絡調整や、本人・家族の希望する治療場所の検討を行ないながら、訪問看護や医師と連携し24時間体制で看取りを行なっている。配偶者の葬式への列席等、状況によっては付き添ってケアできる体制であり、今後も要望に対して必要な支援を、本人の気持ちも察しながら提案していく。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前より受診していたかかりつけ医で受療して頂き、常に職員が通院介助しているが家族が同行される事もある。受診時には健康状態や暮らしぶりについて報告し、ケアについての相談を行なう等信頼関係を築いている。家族と通院された時にもその都度受診結果の報告を受け把握できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者や家族と早期から話し合い意向を把握し、重度化した時にも医師より状態についての説明を受けながら、支援方法について繰り返し説明・話し合いを行ない、安心して頂けるようにしている。長期に亘り意識が戻らず医療主体の治療になった時に、家族と話し合いながら一時退去を検討する等、本人・家族が何を求めているかを常に考え対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心・羞恥心に配慮しさり気なく排尿誘導を行ったり、入居者の繰り返しの言動や思い違いへの対応等、一部の職員の言葉かけに配慮が欠ける時があり、職員自身の考え方や受け止め方により、対応が異なる場面が見られる時等、注意したりミーティングで伝えている。情報の漏洩防止については、全職員が個人情報の保護について理解しており介護計画書・日々の記録・メモ紙に至る迄、来訪者の目に触れる事のない様管理され適切に処理されている。	○	行動に対してのケアや誘導のしかた等、職員の意に沿ったものかどうかではなく、入居者の気持ちを理解しながら一人ひとりの感性に合わせ、入居者に合わせたタイミング等観察していくと共に、尊敬の念を持って接して行かれる様取り組みに期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが取れるような声かけ・誘導以外は、生活習慣やその日の体調・気分を尊重している。食事や入浴・家事等時間がかかっても、健康に支障がない範囲で納得される迄して頂いている。“○○が欲しい”“じゃ買いに行きましょうか”と行動に結び付け、自ら動き行動化出来るような場面作りをし声かけをする事で、本人から希望を伝える事や行動・意欲につながっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ・味見・盛り付け、食器拭き・片付け・テーブル拭きや、日曜日は食材の買出しに行く等本人の持てる力を発揮して頂いている。旬の食材を意識して取り入れたり、献立作成時には何を食べたいかお聞きし反映させている。茶碗や湯飲み等は個人毎に準備して美味しく、楽しんで食べられるよう支援している。	○	本人の嗜好や食べられそうな物、食べやすい大きさや形態を工夫したり、美味しく食べる為の方策についての取り組みを検討すると共に、入居者が参加できる事・可能性についてもアセスメントし更なる取り組みに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や回数がある程度決めているが生活習慣や希望を把握し、個別入浴や側で見守りしながら夜入浴して頂く等希望に沿っている。入浴拒否の強い方に隣接施設の大浴場を利用して頂いたり、羞恥心に配慮し同性介助にする等、気持ちよく入浴し楽しんで頂ける様工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	海を眺める・歌を歌う・会話を楽しむ事や食べる事が好きな方等楽しみごとを把握している。食器拭き・タタの水撒き・買い物等個別に役割を持って頂いているが、生活習慣をしっかり掴めていない為に職員が手を出し過ぎている事もある。草むしりや掃除等家族からの情報や持ち物等から、本人の出来る事を見出しその気になれる様、家族も一緒になって役割作り・場面作りを行なっている。	○	生活歴・趣味・得意だった事等を情報収集・アセスメントし、先ず本人にやって頂き、職員が意識して楽しみにつながるっていくよう更に取り組んで行かれる事に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前住んでいた場所へ家族と一緒に出掛けたり、買い物・散歩・花見・ドライブ等入居後馴染みになった場所へ積極的に行っている。外出先で入居者同士が支えあう場面もあり、皆で楽しみが共有出来るよう支援している。	○	地域の中で暮すという視点での情報収集や暮らしぶり、過去行っていた場所・好きだった場所について等アセスメントすると共に、更に外出機会を増やし楽しみを共有し交流を持つ事で、集団の中の社会的側面を捉えるという視点にもつながる。今後の取り組みに期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上20時～翌朝7時30分迄施錠しているが、職員が作業する場所や立つ位置を工夫したり、声を掛け合いながら安全を確認している。プライバシーの侵害や音による行動制限に配慮しながら、玄関・居室入り口のチャイムが鳴る事で見守りの補助を行ない行動の背景を確認している。入居者が1人で外出された時には、同じ建物の事務所やコンビニエンスストア・診療所・近隣の会社にも見守りや連絡の協力を依頼している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害発生を想定し職員だけでの実施と、入居者を含めた訓練も加え年2回避難訓練を実施している。夜間の職員が少ない時間帯に地域の方に協力を依頼していると共に施設・ユニット間の協力・連携を取っている。屋上の水タンク・懐中電灯・カセットコンロ・割り箸・コップ・皿等の備品は準備出来ている。	○	避難訓練実施の際に地域の方や家族の方にも参加して頂き、応援体制の強化を整備していくと共に、備蓄物品についても必要な物品や必要量、何があれば急場を凌げるのか等今後検討し災害対策を整備されることに期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アレルギー・嗜好や食事・水分摂取量に関して把握し、栄養士の資格を持つ職員が、カロリーの過不足や栄養の偏りを防ぐ為に定期的にチェックしている。食材は配食サービスを利用し栄養バランスは取れているものの、残す方もおられるので補助食品を取り入れたり、希望によりおにぎりにしたり、食べられない時には形態を変える等対応している。	○	その時に本人が食べたい物や好み、傾向・食べやすさ等、本人にも確認しながらアセスメントを継続すると共に、体重・血液検査結果や食べ残しのチェックを行いながら、医師・栄養士と相談し美味しく食べられるよう、旬の食材を利用したり視覚や嗅覚からの刺激も加え、食べたいと思えるような工夫等今後の取り組みに期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩に行った際に野草を摘んできて飾ったり、カーテンの開け閉めで光の強さを調整している。空調等は個人により温度感に差がある為扇風機等利用した対応がされており、管理者の手作りの配膳台を活用しより広い空間が保たれている。一ユニットでは難聴の方もおられる事からテレビやラジオの音が大き過ぎる事がある。	○	スピーカーの配置や音の広がり等、近くに座る方に対する音への配慮をして、テレビの必要な方・付けている時間帯や座る場所等について検討される事に期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄使っていた敷物を持ってきて貰って部屋に敷いたり、テーブル・椅子・筆筒や写真、仏壇・位牌等本人・家族と相談しながら居心地良く過ごせる様に配慮している。		